

東京大学教養学部 主題科目 全学自由研究ゼミナール
「図書館の学び・活用・提案（こまとちゃんゼミナール）」
2020年度S2ターム成果発表冊子

主題科目 全学自由研究ゼミナール
「図書館の学び・活用・提案（こまとちゃんゼミナール）」
2020年度S2ターム成果発表冊子

目 次

「こまとちゃんゼミナール」とは？	5
本冊子（2020年度S2ターム成果）について	7
君の知らない辞書の世界	8

こまとちゃんイラスト
図書紹介パネル画像

図書書影

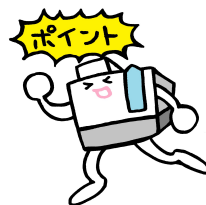
東京大学駒場図書館
かわいいフリー素材集 いらすとや <https://www.irasutoya.com/>
Atelier B/W <https://atelier-bw.net>
版元ドットコム <https://www.hanmoto.com/>
(URLは全て2020年8月31日最終確認)

「こまとちゃんゼミナール」とは？

「図書館の学び・活用・提案」（通称こまとちゃんゼミナール）は、東京大学教養学部生のホームライブラリーである駒場図書館の使い方を身に付け、学習や研究に役立てるための授業です。さらに図書館と学生の協働の試みとして、学生側からの提案プレゼンテーションや資料紹介の展示作成等を行っています。

2017年からターム授業として開講され、担当教員による授業進行を中心に、東京大学駒場図書館や同大学本部情報基盤課学術情報チーム〔学術情報リテラシー担当〕からの協力を得て実施しています。

授業内容紹介



駒場図書館公式キャラクター
「こまとちゃん」

「こまとちゃんゼミナール」は前半、後半に分けられています。

前半タームでは、大学図書館をより深く利用するための実習を行います。具体的には、1. 駒場図書館の概要を知る、2. 学習や研究のための図書館活用法（参考図書やレファレンスサービス等）を学ぶ、3. 情報を探すための基本的なデータベースの使い方を習得する などを通して、学内で利用可能なリソースを使いこなす練習をします。

後半タームでは、利用者である学生側からの図書館サービス／企画の提案や（2017年S2ターム、2018年A2ターム）、所蔵資料を発信するための展示（2017年A2ターム、2018年S2ターム）を行っています。さらに駒場博物館や駒場図書館のバックヤード見学会やビブリオバトルも開催しました。

授業内容（2020年度S1ターム）

回・日程	内容
説明会（4月9日、16日）	ガイダンスとオンライン授業の練習
第1回（4月23日）	図書館が所蔵する資料、書誌情報の読み方、図書・雑誌の探し方
第2回（4月30日）	検索実習（1）GACoSの使い方、学外アクセスと新聞・事典・辞書検索
第3回（5月7日）	検索実習（2）学術論文検索
第4回（5月14日）	検索実習（3）、レファレンスサービスの利用（1）
第5回（5月21日）	レファレンスサービスの利用（2）、まとめ

授業内容（2020年度S2ターム）

回・日程	内容
第1回（6月4日）	ガイダンス、ビブリオバトル準備
第2回（6月11日）	資料選び（1）、ビブリオバトル、冊子のテーマ決め
第3回（6月18日）	資料選び（2）
第4回（6月25日）	紹介文執筆とブラッシュアップ（1）
第5回（7月2日）	紹介文執筆とブラッシュアップ（2）
第6回（7月9日）	校正、ふりかえり（1）
第7回（7月16日）	資料紹介プレゼンテーション、ふりかえり（2）

本冊子（2020年度S2ターム成果）について

本冊子は、2020年度S2ターム授業の成果発表として執筆・作成されたものです。受講生がテーマを決め、関連する資料を選び、紹介文を執筆してブラッシュアップし、最終授業日に発表会を行いました。発表テーマは、インターネットやスマートフォンの普及のために近年使用頻度が減少しつつある紙媒体の「辞書」です。新型コロナウイルス感染症拡大により全ての授業がオンライン実施となり、駒場図書館を含めた多くの図書館へのアクセスが制限される状況のなか、2名の受講生が工夫を凝らして作り上げました。オンライン上だけではアクセスしきれない情報の蓄積の存在を再認識する一助となれば幸いです。

授業実施および準備には駒場図書館の皆様に多大なご協力をいただきました。この場を借りて感謝申し上げます。

「図書館の学び・活用・提案」担当教員 岡本佳子

君の知らない辞書の世界

チーム 木になる果実：楠井俊朗 津原萌里



弟：「ねえねえ、お兄ちゃん、今日、先生にことばに気をつけなさいって言われたよ。ことばって何なのかな？」

おお、我が弟よ、君も向学心が芽生える年頃か。よし、ここは兄ちゃんの腕の見せ所だな。やっこの日が来るとは！

兄：「ことばっていうのはね.....うーん、ことばだよ....」

弟：「え、お兄ちゃんもわからないの？」

いやそうじゃない、決してそうではない！ことばは、ことばは、今使ってるこれさ！

兄：「.....勉強はね、自分でするものなんだよ、辞書を引いてごらん。」

ああ、なんという情けなさ。辞書を作った人はどうしてことばをことばで説明できるのだ？ そうだ、辞書は凄いに違いない！俺はもっと辞書に近づきたい。しかし、どの辞書をどうやって使えばいいのだろうか？ 誰か、俺に教えてくれ！



変わり種辞典

辞書には、国語辞典、英和辞典などの他にも、たくさんの種類があります。チーム員が、「これは珍しい、面白い！」と思った辞書をご紹介します。



「東京ことば辞典」 井上 史雄監修、金端 伸江編 明治書院 2012年

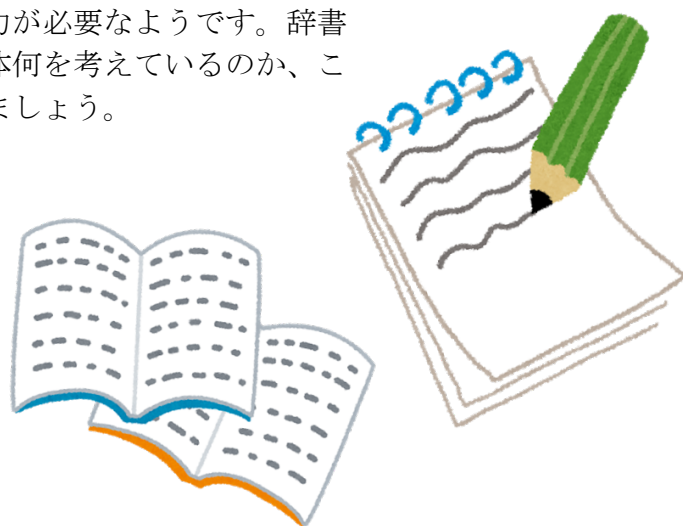
東京、とくに多摩地区、山の手、下町の方言の辞典。日本全国から流入することばの受け手であり、かつ、教科書で使われる言葉の発信源である東京のことばをユーモアのある用例とともに知ることができる。

「五七語辞典」 佛淵 健悟・西方 草志編 三省堂 2010年

五音や七音の言葉を纏めた辞典。ここで紹介されている表現に、自分なりの言葉を付け加えれば簡単に俳句が作れてしまうという優れものの辞書である。

辞書を作る

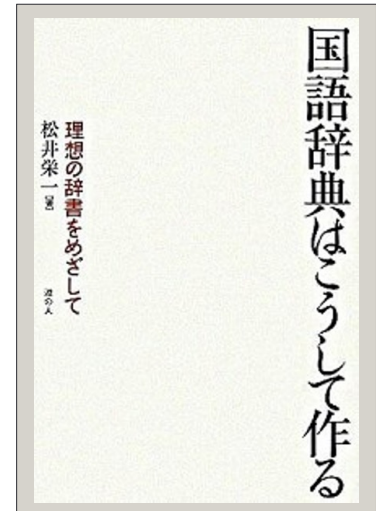
辞書はどのようにして作られているのでしょうか。どうやら、辞書ができるまでには、たくさんの年月と努力が必要なようです。辞書編集者たちは一体何をしているのか、一体何を考えているのか、これからご紹介する本を読んでのぞいてみましょう。



「国語辞典はこうして作る 理想の辞書を目指して」

松井栄一著 港の人 2005年

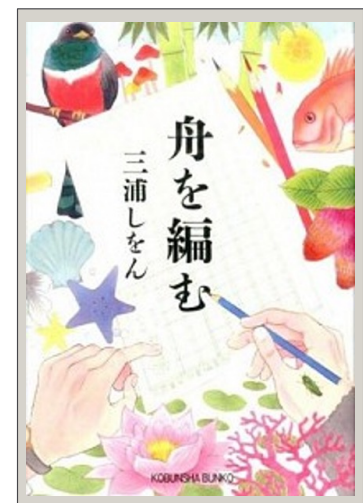
『日本国語大辞典』の編纂に長く携わってきた著者は、「理想の辞書」の条件は、調べたい言葉が必ず載っていること、言葉について知りたい情報が書かれていること、実際の使われ方の例が数多く載っていることの3つだと論じている。しかし、私たちの使っている日本語は、古代からその流れが途切れることなく続き、ある言葉が生まれてはある言葉が消え、同じ言葉の読みや意味、使われ方が変遷し続けてきた。このような膨大な言葉と意味、使われ方がある中で、それらの情報を一つ残らず辞書に組み入れるということは不可能に近い。それでも、将来の辞書の手本となるような、多くの人に満足してもらえるような辞書を作ることを目指す著者は、どのように文献を読み、どのように言葉の意味を正確に捉えて伝えようとしているのだろうか。本書を読むことを通じて、一つひとつの言葉を丁寧に考えていくことの大変さと楽しさを感じることができるだろう。（津原）



「舟を編む」

三浦しをん著 光文社文庫 2015年

私の人生最初の国語辞書は小学館の『例解学習国語辞典』であった。言葉を覚えたいというよりは辞書をボロボロにしたいくて、知っている言葉も知らない言葉も辞書でひいては付箋をつけるという、勉強なのか遊びなのかよくわからないことに精を出していた覚えがある。思えばその頃の私は今の私よりもずっと辞書好きであったようだ。「辞書は言葉の海を渡る舟だ。」(p.34)「もし辞書がなかったら、俺たちは茫漠とした大海原を前にたたずむほかないだろう。」(p.35)とは、この小説に登場する辞書編集者の言葉だ。側から見れば変わり者といしか言いようのない、辞書『大渡海』を作ることに人生を捧げる者たちが、不器用に、しかし、強く生きる姿を描き出している物語である。分厚くて文字が小さくて、小難しいと思っていた国語辞典がなんとなく愛おしく思えてくる。この小説を読んだ後に、部屋の片隅にある飾りと化してしまっていた辞書を引っ張り出して、紙の「ぬめり感」を確かめるためにページをいくつもめくってみたのは私だけであろうか。（津原）



辞書を使う

辞書には様々な種類のものがありますが、それらについて纏めた本があったり、また辞書と文化の接点について書いた本もあります。是非紹介する本を読んで辞書マスターになってください。



広辞苑



新明解国語辞典

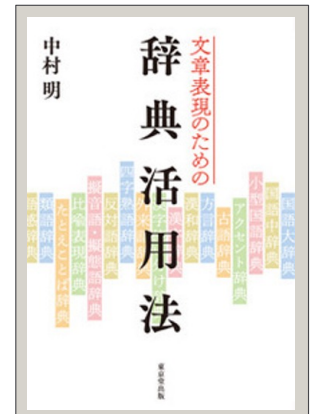


例解新国語辞典

「文章表現のための 辞典活用法」

中村明著 東京堂出版 2018年

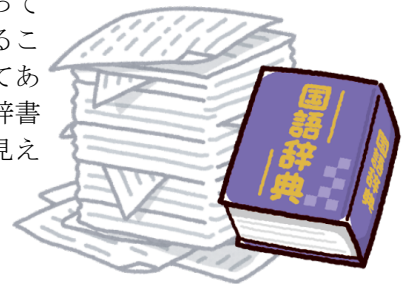
一口に辞典といっても様々な辞典がある。例えば国語辞典だけでも大型のものから小型のものまであり、更にそれぞれで色々なものが出版されていて、どれを使えばいいのかわからないこともあるだろう。この本は半世紀にわたって辞書を執筆してきた著者が案内人となり、センスのある文章を書くために日ごろから読んでおくとよい教養を高めてくれる辞書から、文章表現を豊かにしてくれる辞書までを文章を書く人の視点に立って場面別に分類して幅広く紹介してくれている。文章を書く機会のある人は是非本書を一読してみたい。また、様々な辞書の特徴的なところや面白いところが抜粋して紹介してあるので、単純に読み物としても面白い本である。私もこの本で「描写や表現の辞典」として紹介されている美しい文章を纏めた『新文章描写法 美文辞典』に掲載されている表現の一部を拝借して、例えば「萌ゆる若葉の色彩が春愁を感じさせる～」等と手紙に書いて送ってみたいと思う。（楠井）



「国語辞典を読む」

杉本つとむ著 開拓社 1982年

辞書は中立だろうか？日本の国語辞典には主に広辞苑、新明解、例解、岩波など様々なものがある。1982年出版のこの本は少し情報が古いという難点はあるものの、当時の辞書から権威のあった十冊を選び、様々な文化的観点から比較検討している。例えば、他の辞書と比較してみたとき広辞苑の用法は古典の文章からとっているものが多く、現代人に馴染みにくい表現が多用されていたり、説明が短い言葉の言い換えになってしまったりしていてトートロジー（同語反復）ともみなされかねない部分もある。そのため一般家庭を利用対象とみなした場合不適切な部分も多いことなどが指摘してある。また、日常生活の中で男女差別、人種差別は社会の奥深いところに潜んでいて時々姿を現すが、そのような影響もあって辞書にも幾分差別的な記述がみられるという事を実際に辞書の語釈を検討することで指摘している。現代では広辞苑の編集方針も変化しておりこの本に書いてあることを鵜呑みにするのはよくないと思うが、この本に書かれていることを辞書の変化と合わせて考えてみると、文化の変容に合わせた辞書編集の在り方が見えてきて面白いのではないだろうか。（楠井）



東京大学教養学部 主題科目 全学自由研究ゼミナール
「図書館の学び・活用・提案（こまとちゃんゼミナール）」
2020年度S2ターム成果発表冊子

著者 楠井俊朗 津原萌里
編者 岡本佳子

発行日 2020年8月31日
発行 東京大学教養学部 主題科目 全学自由研究ゼミナール
「図書館の学び・活用・提案」

発行所 〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1 101号館12室
東京大学教養学部附属教養教育高度化機構社会連携部門
TEL 03-5465-8820 FAX 03-5465-8821

